



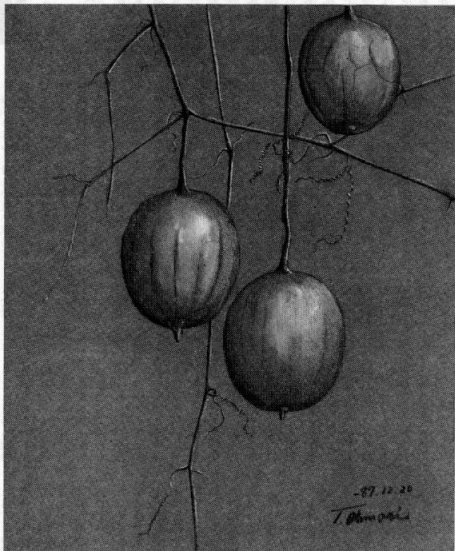
88年1月25日

No. 69

東京都腎臓病患者連絡協議会（東腎協）
事務局・〒161 東京都

電話・

昭和五十一年一月二十五日第三種郵便物認可
SSKA通巻一四五九号（毎週月・水・金曜日発行）
昭和六十三年一月十六日発行



え・大森 輝秋

● おもな記事 ●

- ◎新年のあいさつ……………3
- ◎会旗、会員証の紹介……………6
- ◎役員交流会（東都、北部）開く……………7
- ◎シャント・トラブルと教訓……………18

- ◎腎臓病を考える都民のつどい……………4
- ◎腎移植推進キャンペーン……………6
- ◎たえこのひとりごと〈20〉……………8
- ◎透析10年、15年調査……………19

リレー・エッセイ

喉もと過ぎれば...

副会長 糸賀 久夫

昭和四十二年四月、田舎から一人出てきて生活を始め、仕事、組合、夜学とがむしやらに生きてきた時代でした。

約五年位たったある日、仕事の中にのどるさ、食欲不振などの自覚症状が出てきました。

最初は、軽い気持で近所の診療所で受診しました。二回目の受診の時に「急性腎炎の疑い」ということですぐに、入院した方がよいと言われて、その診療所で入院先の病院まで紹介されました。しかしその病院には入院せず、職場の方で紹介された病院へ入院することになり、ベッドがあくまで、寮でぶらぶらしていました。そんなある日、近所で診療所の看護婦さんに逢い、「あなた、まだ入院していないの？、入院しないと死んじゃうよ」と言われました。しかし、その時は意味がよくわかりませんでした。

入院すれば、仕事もさげられるし休養にもなるとほんの軽い気持で病院の玄関をくぐりました。最初の二週間も、検査の連続でした。

一番確実な診断方法だということとで腎生検を行いました。現在のところ、現在の針を刺す方法ではなく切開して細胞を摘出する方法なので大変痛い思いをしました。

すべての検査が終了、「亜急性腎炎による慢性腎不全」、「亜急性腎炎」と診断されました。この病気がどんな恐ろしい病気か最初はピンときませんが、先生から「あなたの腎臓は、六%しか働いていません」と言われ、病気に無知だった私は、初めてこれは大変な病気にかかってしまったと気がつき、診療所の看護婦さんの言葉が決してオーバーでなかったことを知りショックを受けました。

当時は、かなり厳しい食事療法を受け、塩分三〇、蛋白質二十〇と今では、考えられないような食事制限でしたが、栄養士さんが一生懸命やってくれたこともあってなんとか耐えることが出来ました。

四十七年の夏、説明を聞いて何もわからず、外シャントの手術を

受けました。手術中に先生が「あなたには、エリートなんだから頑張らなければいけない」と言われたのを覚えております。どういう意味なんだろうと考えてみたら、機械がたりないので次の透析を受けられる人がこの病院では、限られていたからでした。私は、社会復帰が可能な職場、健保本人、若齢などの条件が好運だったと思います。

せつかく作った外シャントも透析を導入するまでの準備期間中に、はやくも詰り出し、一回も透析をしないうちに、手術をしなすことになってしまったのです。

その後、十二月に入っても限界にきたということで第一回目の透析を受けることになりました。透析室に入るの大きな洗濯機みたいな機械がたくさん置いてありました（現在のものより大型のもの）。その透析機は、キール型のメンブランをその都度張り替えてやるもので、現在の透析機よりは、随分効率の悪いものでした。

小心者の私は、血圧が高くなり頭が痛かったことを思い出します。

透析歴十年を迎えた時に、当時

の病院へ行って調べてもらったところ、その記録が残っていたので透析第一回目の記録としてそのコピーをいただき、大切に保管してあります——その中には、「機械の調子まったく悪し」と記入されているのが印象的でした。

これが私の透析との出会いであり、スタートです。

昨年、透析歴十五年を迎え、改めて、透析との出会いについて、当時を振り返ってみようと思いたち、とりとめもなく書いてみました。当時の苦しかった思い出をこの期にもう一度しっかりみつめなおし、これからの透析人生のプラスにしたいと思ったからです。

人間は、誰しも「喉もと過ぎれば……」で苦しかったことを忘れがちになります。透析は、目覚まし進歩し、あれほど、厳しかった食事制限も、かなり緩和され夢のようです。

しかし、またそれは、「初心忘るべからず」ということでもあると思います。長期透析者には、新たな合併症等が問題になっていまして、いつでも当時を思い出しながら、気をひきしめて頑張ろうと思いま

15周年記念行事を終えて

東腎協会長 石川 勇吉

明けましておめでとう

ごさいます。

会員の皆様には、すがすがしく新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年は、東腎協結成十五周年というところで、二度の腎バンク拡大キャンペーン、「腎臓病を考ふる都民の集い」などの記念行事には多数の会員各位の御協力を頂き無事、予定の行事を終わる事が出来ましたことを厚く御礼申し上げます。

また昨年、はじめて、地区別の患者会役員交流会を企画しました。そして、病院患者会役員の方が出ました。今年は地域ごとの問題もふまえて続けて開きたいと考えております。

すでに御承知の事と存じますが、近々薬価基準の引下げが予想されます。また、それが私達透析患者にどのように影響されるかを充分に見つめ、それ相応の運動も

必要なのは、と考えざるを得ません。

このところ、毎年透析導入患者の老齢化が進み、平均年齢も五十五歳を超えるのではないかと思います。一方で糖尿病等などの合併症のある患者さんが増えている現状も見逃がす事が出来ません。一昨年来、都では腎不全対策研究会を発足し、研究の結果が昨年十月に報告されました。そのなかで対策協議会の設置が提言されました。総合的な腎不全対策を効果的に推進するため、早急に関係機関による協議会を設置し具体的な腎不全対策をはかることを要望しており、一日も早くその発足が

またれます。その為にも、東腎協としても強く要望する必要があると思っております。

今後とも一層の御協力と御支援をお願いすると共に、会員の皆様のお多幸を心からお祈り申し上げます。

腎疾患総合対策 確立をめざして

事務局長 森 義昭

新年あけましておめでとうございます。会員の皆さまにはお元気で新年をお迎えのことと存じます。

昨年は東腎協結成十五周年ということもあって多彩な事業に取り組み、それぞれ成功裡に終了したことは、皆さまの積極的な協力の賜物と感謝いたします。

さて、最近の透析医療は、たび重なる医療費の引き下げにもかかわらず、バイカーポネリスト透析、逆浸透圧装置、コンピュータ制御除水コントロール等導入やダイアライザーの著しい進歩など、施設側やメーカーの努力で比較的時間に効率よく、そして楽な治療が受けられるようになりまして。

このような中で透析患者は、昭和六十一年十二月末現在、七三、五三七人(日本透析療法学会調べ)に達しており、毎年約七千人ずつ増え続けています。そして、その医療費は最近では四千八百億円に

上るものと思われまます。

一方、昭和六十二年度の国民医療費は十八兆二千億円と推計されていますから、透析患者約八万人の医療費が国民医療費に占める率は二・六%ということになります。

この増え続ける膨大な医療費をいつまで国民が負担しているのでしょうか。このこと一つをみても私たちは微妙な立場に立たされているということがお分かりいただけると思います。

私たちは、私たち自身のためにもまた社会的にも、腎臓病患者—透析患者を少しでも少なくするように努力する責務があるといえましょう。このことは全腎協・東腎協が腎疾患総合対策確立のための運動をすすめているゆえんです。また同時に私たちは個人的にも治療態度そのものもますます厳しく問われるのではないでしようか、皆さんはどう思いますか。

ともあれ、私たちの状況はますます厳しくなることは確実ですが、一致団結してこの難局を乗りこえようではありませんか。本年もご協力の程よろしく願ひいたします。

都、都医師会と共催で開催

腎臓病を考える都民の集い

患者、家族、都民など389人が参加

腎臓病を考える都民の集い

主催 東京都・東京都医師会・東京都腎臓病患者連絡協議会



「腎臓病を考える都民のつどい」—松村満美子さんの司会によるシンポジウム

東腎協は十一月二十二日（日）、東京都、東京都医師会との三者共催で「腎臓病を考える都民の集い」を東京都勤労福祉会館（中央区新富）で開催しました。この集いは、昨秋、東腎協の結成十五周年を記念する行事として開いたものです。会場には、会員や家族、一般都民など三百八十九人が参加しました。

〈式次第〉

- 一、あいさつ
竹内敏博（東京都衛生局医療福祉部長）
- 福井光寿（東京都医師会理事）
- 石川勇吉（東腎協会長）
- 二、シンポジウム
「小児の腎臓病」（東京女子医大小児科教授・伊藤克己先生）
「腎臓病の早期発見」（昭和大学藤が丘病院助教授・北岡建樹先生）
「腎臓病のはなし」（国立佐倉病院副院長・横山健郎先生）
それぞれのテーマについての講演後、松村満美子さんの司会により三人の先生でディスカッションを行う
- 三、体験発表
吉澤史子（ネフロローゼ寛解児の母）
柳光夫（東腎協副会長）
後藤藤廣（腎移植の会・東京キッド会長）
- 四、閉会のあいさつ
鈴木重任（東京都衛生局特殊疾病対策課長）
（司会は、松村満美子さんが通して行った）



都民のつどいは、腎研究会、腎臓移植普及会、腎臓移植の会、「ゆうろ」、全腎協、埼玉友、千腎協の各団体に協賛をさせていただきました。当日は、東腎協参加者二百九人(患者会数三十七、茨城三人、埼玉四十五人、千葉七人、一般百十四人、来賓十一人、合計三百八十九人が参加しました。

午後一時三十分、松村満美子さんの司会で始められ、主催団体が



ら竹内敏博さん(東京都衛生局医療福祉部長)、福井光寿さん(東京都医師会理事)、石川勇吉さん(東腎協会長)のあいさつがありました。

この中で、東腎協の石川会長は「透析に苦しむ患者は、私たちでもうたくさんです。全腎協では、今から七年前に国、地方自治体に対し予防から早期発見・治療、腎移植、完全な社会復帰までを含めた腎臓病の総合対策を要望してきました。今回、都民のつどいを東京都、東京都医師会と共に主催できたことに厚くお礼します」と述べました。

シンポジウムは、最初三人の先



シンポジウムの先生方による医療相談(上)
パネルを熱心にメモをとる人も(中)
シンポの伊藤、北岡、横山先生(左から)(下)

生方が基調講演を行いました。

伊藤克己先生(東京女子医大小児科教授)は、「全国で小児(十八歳以下)の透析導入は年間百二十人だが、昭和五十三年をピークに慢性腎炎、ネフローズから透析に移る患者は減少している。その要因は、学校検尿が昭和四十九年から始まり、その成果が徐々に現われているから」と早期発見・治療の大切さを強調しました。

北岡建樹先生は、「尿検査をして尿に異常が出れば専門の病院で調べてもらうことが大事。そして腎機能に応じて適切な治療法を受け、腎機能をできるだけ保つように」と腎臓の働きの重要さを

述べました。

横山健郎先生は、「腎臓移植は生体腎で一年成着率九〇%、死体腎でも八〇%の高成績になった。それはシクロスポリンという非常に免疫抑制剤が使用されるようになったからだ」と前置きし、腎臓移植の目的、重要性を話されました。

基調講演後、三人の先生方によるディスカッションが行われました。

体験発表は、吉澤史子さんがネフローズのお子さんと共に歩んだ苦難の闘病生活、そして現在、寛解に近い状況になったことを淡々と語りました。

東腎協副会長の柳さんは、九年余りの透析生活の闘病体験を話し、腎移植の会の後藤廣さんからは、透析導入後から死体腎移植までの経過を発表しました。

なお、都民の集いではパネルディスカッションの先生方による医療相談、東腎協役員による生活相談も行いました。また、腎臓病、腎移植、東腎協・全腎協の活動のパネルも同時に展示して関心を集めました。

会旗、会員証の紹介

東腎協では結成十五周年を記念して、会旗（写真左上・緑）、会員証（写真左下・青）を作成しました。

会旗は大（二〇〇cm×一七〇cm）を一本、小（三五cm×五〇cm）を五本作りました。会旗はすでに十五周年記念「腎臓病を考える都民の集い」で披露しました。大きい

旗は総会などの行事、小さい旗はキャンペーンなどの集合、案内で使用します。

会員証は全会員分作りました。

この会員証は今号の「シャント・トラブルの教訓」（18頁）に見られるように、緊急災害時のために、身に付けておけば良いと思えます。

腎移植推進キャンペーン

上野公園で盛大に開催

十月十八日、台風一過の秋晴れの下、上野公園大噴水前で「腎移植推進月間」の一環として、東京都医師会、東腎協の三者共催で「愛と健康の贈りもの、献腎運動を進めよう」をテーマに、午後一時三十分から患者・家族百三十一人、都職員三千人が参加、松村満美子さんの司会で、腎移植推進キャンペーンが行われました。

なお、今回の催しには、東京都より、二百万円の予算が計上されました。

オープニングセレモニーでは、世田谷区互助会の方々により、音楽演奏、パトンプラワーズの演技、美鈴太鼓の皆さんが、豪快な太鼓



東腎協会員証

所属病院患者会名

会員番号

連絡先

東京都腎臓病患者連絡協議会
東京都新宿区下落合3-15-29 TEL 03(952)406



また、腎バンク登録には、開会前から、多くの人が姿を見せて説明を受け、六十二人の方が登録をしました。

さらに、声のアピールで、ポニージャックス、さとう宗幸さん等が、都民に「献腎」の理解と協力を訴え、内容、参加者共に充実したキャンペーンでした。（鈴木）

晴天に恵まれたこの日、動物園や公園に遊びに来た、多くの家族づれや若い人達が、会場につめかけ、パネルに見入ったり、医師、看護婦による医療相談（八人）や血圧測定（五十九人）を受けていました。

の連打等で、広い空に響きわたるような実演で盛り上がりを見せました。そして、都衛生局長、都医師会会長、東腎協会長の挨拶の後、十月一日に選ばれたばかりの三人のミス東京も応援に駆けつけ、都民に「献腎」を訴えました。さらに、チラシ、簡易体温計各四千枚、風船三千個を参加者全員が、各所に散り、一時間程で配りました。

質問や悩みなど心開いて話し合う

東部地区役員交流会開く

東腎協東部患者会役員交流会は十一月八日(日)、飯田橋セントラルプラザで開催されました。

東部地区(足立区)、葛飾、墨田、台東、荒川(江戸)の患者会は十四で、うち出席された患者会は新小岩クリニック友の会、森山病院友の会、ニール友の会、両国クリニック腎友会、上野しのばす会、西クリニック、西新井病院腎友の会の七患者会、十六人でやや低調で残念な気持ちもしました。

会は定刻より十五分遅れ、午後一時十五分から高橋副会長の挨拶、次に東腎協が交流会を重視する姿勢になった経緯と今年度の活動報告があった後、自己紹介をし、小休止しました。

休憩後、各会の活動内容が発表されました。会費は四百円―六千円などの幅があり、旅行は殆どが日帰りで中には職員を招待されている会もありました。会報は一二の会で年に二―三回の定刊を行っている以外、未だその段階にない様です。しかし発行はしている

ものの原稿不足が悩みの種になっているようです。

会の中には医療、福祉、未加入者の問題に対しての発言があり、平沢副会長が対応し東腎協の運動による成果を示され納得された様です。特に未加入者問題については、各会共に理解が得られず、これと言った決め手がなく、この問題は会員拡大で今後も検討課題となりそうです。

短い時間でしたが、出席された幹事の皆さんから質問もあり、悩みもあり、心を開いて話し合うこと、少しは会活動の糧となるものと期待して居ります。

最後に平沢副会長から閉会の挨拶と今後の協力をお願いで会は終わりました。これからは多くの仲間に参加で、昼食をはさんで話合いたい気持ちです。(記・中田)



雪の降る中、活動の苦労話し合う

北部地区役員交流会開く

東腎協北部患者会役員交流会は十二月十三日(日)、北区赤羽会館で開催されました。当日は朝から雪が降り続き、参加の皆さんは苦勞して会場に集まりました。

参加患者会は大山中央腎友会、北病院腎友会、松和患者会目白支部、すずらん腎友会、東高円寺フエニックス会の五患者会でした。参加者は、東腎協石川勇吉会長をはじめ十四人でした。

柳副会長の司会により会議は進められました。最初に石川会長が挨拶を行いました。続いてプロック活動の経過、プロック単位患者会役員交流会の考え方についての報告が行われました。

参加者の自己紹介では、「来年少月で透析が十七年になります。心不全など起こしたり、どうやらハードルを越えてきました。これからまたハードルを越えていきます」「昨年大病をして歩けなくなりました。入院中糖尿病になり、肝臓も悪い、どうにか生きています」と体をかばいながら患者会役員

員を続けている様子がうかがわれました。

各患者会の活動報告では、糖尿病の患者、高齢者の患者の増加がどの病院でも問題になっており、旅行などを計画しても、参加者が集まらず、中止した例などが述べられました。

今後の運動としては、プロックで文化部を作り、作品発表会を開くなどの提案もありました。

(各会報告から)

- ・大山中央腎友会、会長を置かず、副会長三人の責任性
- ・北病院腎友会、十周年記念でテレホンカードを作成
- ・松和患者会目白支部、松和会三病院」として色々な行事

- ・すずらん腎友会、患者が増加(会員十二人増)年配者多い
- ・東高円寺フエニックス会、会長一人、副会長など置いていない

以上報告の後、今年度の東腎協の活動についての報告があり、一ノ清副会長の閉会の挨拶で交流会は終わりました。(記・草間)

東京では二月三月に大雪に見舞われることは多いのだが、年の明けない内に二度も降ることは、とても、珍しい。

異常気候と

異常な世相

異常気候のひとつだろうか。世相もこのところ異常な事件が続出している。せめて、新年には穏やかな気分を味わいたい。

おかしな言い方だが、昨今、異常なことには慣れてしまつたとはいえ、あまり続くことやはや不安になるものだ。

特にこの年末に来て政治的に恐ろしい事件が立て続けに起つて、とても分析不可能な状態に陥っている。

謎のハチヤ・マユミなる人物が、韓国へ強制移送されて、タラップを降りる姿は個人の上に

落ちた政治の影の残酷さをまざまざと見せつけられて、正視できない痛々しさだった。

しかし、人は映像化された残酷さには過剰に反応するが、目に見えない残酷さについては、なかなか気がつかないものだ。

将来、国民健康保険を低所得者用だけ分離して、運用していくとの案が出ていたが、これはアメリカで行われている低所得用保険メディ・ケイドの真似なのだろうか。

もし、そうなら、「アメリカの病院革命」(川原邦彦著、日本経済新聞社)から得た知識から考えると、今後、日本でも、はっきりした形で、貧乏人は一定程度の医療しか受けられない世の中になるわけだが、これも、なかなか残酷なものだ。自分が低所得者だから、あえ

て言うのだが!? お金がないために、病気が治るかもしれない検査や治療を受けられないというの悲哀を感じる話ではないだろうか。

反対にでき高払いだからという理由で、必要のない検査や薬をあてがわれるのも、ひどいことだろうが、それは、医師の良心の問題で、保険制度に原因があるとは言えないのではないだろうか。

医療費の問題は切実なので、真剣になってしまいが、日本人の九割は中流意識を持っているそうなので、自分には関係のない下流の人達の問題だと思つてあまり、気にしないのかもしれない。

でも、それでいいのだろうか。お金をもうけられる人ともうけられない人の生命に軽重の差をつけることは公正なことなのだろうか。

現代は拝金主義が主流を占めているので、正しいか、正しくないかは別として、何事につけ金力によって差がつくのは否定

できないところだが、生命となると別ではないかと思う。

ケストナーの童話「点子ちゃん」とアントン」

最近、また童話を読んでいるが、前から気にかかっていたケストナーの作品に心を打たれてしまつた。

「点子ちゃん」とアントン」(高橋健二訳・ケストナー少年文学全集3・岩波書店)の中の第六の反省という箇所では、フランス革命を例に引いて、子供にもわかるように、貧乏について述べている。

「王妃マリー・アントアネットはバリのいちばん貧しい住民たちが王宮にデモをして、「パンがない」と叫んだ時、「お菓子を食べればよいのだ」と言ったのだが、これは、人民をからかったのではなく、王妃は貧乏がどんなものか知らなかったのだ、パンがなければ、お菓子を食べればよいのだと思つたままで、一年のち、王妃が首をはねられたのも、そのためだった。

たえいのひびく

<20>

木村 妙子

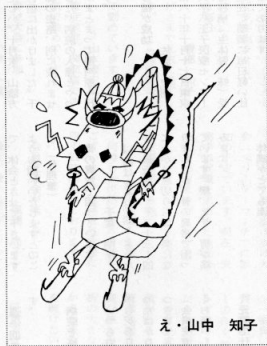
貧乏はどんなにつらいものかということ、金持の人たちが子どもの時から知っていたら、貧乏をなくすことが、たやすくできるとみなさんは思いませんか。

この作品が発表されたのは、一九三〇年であり、現代では、あの時代のような、古典的貧乏はなくなっても、清貧に耐えて人間の尊厳をもって生き抜く雄々しい少年や、けなげな少女はあまり、見当らないけれども、相対的な意味での貧困は今でも存在する。

また、このお話のように単純な善意で解決される問題ではないが、持てる者が持たざる者に与え、強い者が弱い者を守るといふ、公正さを求める気持は万人の中に、どんな時代になっても生き続けている筈だ。

「強きを助け、弱きをくじき」

こういう感覚から考えると、医療を定食風に、貧乏人は「梅」の治療、中流は「竹」の治療、



え・山中 知子

金持階級は「松」の治療というように区分けするのはとても、耐えられない気がする。

行政当局もなんとか、国民皆保険を存続させ、支払い機能もバンクさせず、高齢化社会に対応していく道を捜しているのだと思うけれど、下に薄くなることだけは避けていただきたい。

この頃は子供向けのテレビで「強きを助け、弱きをくじき」と洒落のめしているが、現実には弱者をくじいてしまう世の中に

なってしまうたら、ジョークも笑えなくなってしまう。

弱い者いじめほど恥かしい罪はないと思う。権力者や億万長者は少々苛められていても、心が痛まないが、弱い人をつまみ食いしているのを見ると腹が立つ。同じ仲間に対する連帯感なのだろうか。でも透析患者は一口では言えない複雑な存在だと思う。

透析患者は病人なのだから社会的には弱者なのだが、精神的

には強いものを持っているのではないだろうか。私自身、なぜこうも、反権力的なのかと思うが、やはり、子供の時から腎臓病にとりつかれ、人生を築かないうちに透析をしなければ生きていけない苛酷な運命を背負ってしまったからだろう。

石川啄木に、うる覚えだが、我が抱く思想はすべて金なきに因する如し

秋の風吹く

という悲しい歌がある。生活の中から思想は生み出されるのだから恥かしいことなどないのに啄木は嘆いている。よく、わかるが、嘆いても仕方がない。

透析生活は誰でも味わえるものではないので、反権力でもなんでも、考えを深めていって自分の思想とまでいかなくていい信念のようなものを掴まえることができたなら、捨てたものでもない。

十二月十八日

東腎協常任幹事

なかまの たより

会員の皆さんから原稿を募集しています。うれしかった事や悲しかった事、苦しかった事などの闘病記、ひとり言やカット、写真などなんでも気楽にがいて事務局へ送って下さい

特集 私の近況報告

東腎協は、昨年十一月一日に会員交流会を飯田橋のセントラルプラザで開催しましたが、出欠の往復ハガキを個人会員に送りました。返信のハガキには、出欠の連絡と共に近況が沢山寄せられました。また交流会当日も近況報告を書いていたいただきましたので、私の近況報告として特集してみました。(編集部)

忙しい毎日

白井 次郎

カリウムもリンも最近よくないが、別に体の調子が悪いとは思わない。いま元の職場の退職者会の会長、会議やら結構忙しい。十月末、山陰方面へ合宿に出かけました。千八百kmの走路、別に疲れませんでした。病院の人達とやっけそう。

腎移植が成功

佐藤 史朗

昭和六十年十月十七日東京医科大学八王子医療センターにて腎移植(生体腎、妹)受け、現在、順調に毎日軽い仕事をしております。

伊藤 洋子

大森の病院から今の病院に移って二年目になりますが、バイカーボ透析のおかげで体調がとてよくなりました。

やつと退院

南 美津子

石川様、シャントのお手紙ありがとうございます。お陰様でやつと退院できました。石川様もお大事になさってください。

週一回透析

丹沢 伸浩

週一回でがんばっています。

病院を移ったばかり

小松沢淳子

いつもお世話になります。申し訳ありますが、病院を移ったばかりでまだ気分が落ちつきませんので参加出来ない(会員交流会)が、よろしくお願ひします。

体調も良く

中山 信弘

体調も良く仕事も十分に行っております。

元気で仕事の毎日

伊藤 喜良

合併症もなく元気

心臓悪化で一進一退

坂本 金助

心臓悪化の為六月から入院、一進一退で当初ご連絡文さえ読むことが出来ませんで、休会とさせていただきますようお願いいたしますとのこと。(代理筆)

骨の異常で困っています

千葉 明子

以前は貧血で悩まましたが、最近は大マト二十三と四に上がり息切りもなく楽になりましたが、骨の異常で困っています。腰、ヒザ、肩が痛みます。

体調がとてよ

通院も忘れた頃に来れば良いとの事で元気に働いています。五月には二回の徹夜仕事も乗り切ることができました。(ネフロローゼ)

週三回透析

高橋 利江

月、水、金と元気に病院に通っております。

確執も社会のうちに

苜田 法幸

今を見つめております。確執も社会のうちにあります。(賛助会員)

入院し退院

栗本 忠

去る六月他病院にて入院、七月三十一日に退院、ただ今東京船員保険病院で透析の方をご厄介になっております。

鈴木 武夫

いつもお世話になり、ありがとうございます。早くも透析九年目に入りましたが、特に合併症もなく元気にしております。これからも自己管理をし、常に希望をもって充実した日々を送りたいと思っております。

ません。はげましあう友人も少なく元気が出ません。

元気な毎日

磯部 和子

おかげさまで元気に過ごしています。(慢性腎炎)

元気で動めています

山本淳三郎

手根管症候群、関節痛ですが、元気で動いています。

データは良いのだが

松原 清代

先生にはデータが良いといわれていますが、とうせきも十年すぎた私にはらくではあり

歩け歩け大会に参加

小林 一雄



十一月一二日歩け歩け大会(スリーデーマーチ)に参加の予定しています。現在、失業者中で就職を求めるため活動しております。

主婦業以外も働く

江口 要

何時もお世話になり有難うございます。主婦以外家業に四一五時間働いております。

会員交流会が楽しみ

風間 尚子

最近、最小血圧が上がってきて下がりにくく心配です。進行しなければいいのですが。楽しみ(会員交流会)にしています。(慢性腎炎)

透析を始めて半年

伊藤 勇治

何分よろしくお願い致します。丁度透析を始めてから半年になります。大分馴れてきました。

体調、今が一番

聖川恵美子

透析生活八年目。体調は今

が一番良い。最近、区の小費者講座、カルチャーセンターの作文教室を受講している。レポート書きに苦しみながらも楽しい。やはり、社会とつながりを持つことは、価値があると思う。透析中は、読書に精を出している。本を読む楽しみを知ったことは透析の大きなメリットだ。これからも楽しみながら透析生活を続けたいと思う。

元気で仕事に従事

小林 均

特別変わったこともなく元気で仕事に従事しております。(慢性腎炎)

普通の高校生活を

留月 伶子

(長男・哲貴が腎移植後、免疫療法中)慢性拒否反応に悩まされていますが、ほぼ普通の高校生活を今日送っています。十七歳。

もっぱら安静に

趙 謙寿

二十年以上にわたる長い間

の闘病生活の為かすつかり身体が、ポンコツ)になっている上に心疾患(冠心全)の為に度々発作を起こしますのでもっぱら安静に努めております。(慢性腎炎)

身体快調

田沢 利幸

身体快調、多忙にて院内患者会にて(学習、交流、バス旅行等)定期的に実践。

リハビリ中

小島 金治

多発性筋炎の為、筋力低下によりリハビリ中。

透析十一年目

田中あや子

透析十一年目に入り肩とひざの痛みやかゆみがつらい。肝腫瘍で抗癌剤を

大澤 茂夫

週三回の人工透析の他、東京女子医大にて肝腫瘍の為、抗癌剤を注入しています。

腎移植し社会復帰を

久松 義武

ブレドニン(十胸)による糖尿や肝臓障害はあるものの社会復帰して元気に勤めています。(腎移植)

週三回の透析

北山 忠利

週三回、新宿石川病院で透析シテオリマス。

腎移植後、とても順調

清水 清子

腎臓移植、昭和五十六年五月十九日、提供者姉、移植をして六年四カ月、とても順調です。

貧血きみ

星野由美子

貧血きみです、毎日会社勤めもなんとか続いております。役員の皆様、いつもご苦労様です。今後ともよろしくお願い致します。

透析は先へのぼりたい

山下満喜子

昭和四十二年よりネフローズで五十二年位まで大変でし

たが、その後は間質腎炎の方

になり、それらの治療に今働んでいます。院内の腎グループの会長としてここ五年間頑張っています。これからも透析に入ることは一年でものばすようにと……。

まあまあ元気

上保美登利子

すくにつかれますが、まあまあ元気に暮らしています。

貧血、めまい

新井 留也

貧血、めまいがあります。(腎盂腎炎)

病院の通院だけ

橋本 幸一

今のところ血圧が二百以上あり、ヘマト十六の為病院通院だけで何処にも出かけてませんので、いからず御許し下さい。

CAPDに移行

池田 武彦

昭和六十一年五月一日よりCAPDに移行。

透析仲間仲間よく

淺見 澄子

私の通院しています石川病院は患者会がないので、月水金の週三回透析の仲間でグループ(五一六人)を作って毎月温泉に行ったり映画観賞、たのしい食事会、身の回りの出来事や悩みごと等を話し合ったり、又読んでみて楽しかった本を借りたり、貸したりして感想をのべ合っています。

今後も仲間をもっとふやして楽しく明るく元気で透析をする為に頑張っていこうと決心しています。どうぞよろしくお願いします。

幹事の方御苦労様

内田 裕吉

幹事の方いつも御苦労様です。今後ともよろしくお願ひします。

満十年の透析

山崎小み子

お世話様です。九月で満十年を迎える事ができました。通院点ではありますが、とて

透析仲間仲間よく

山崎小み子

お世話様です。九月で満十年を迎える事ができました。通院点ではありますが、とて

も感慨深いものがあります。

骨症で片杖ですが、自分なりに頑張っています。

弱った体力も回復

菊池 克子

暑さの為に体力が弱っておりましたが、十月に入りホッとしております。今後ともよろしくお願ひ致します。

ストレス発散法教えて

松浦 秀一

ストレス発散の方法、教えてください。

踵が痛い毎日

長谷川方

踵が痛い毎日



透析して四年半になり八月より重曹透析になり、のどもかわかなくなり血圧も下がらなくなりましたが、五月頃より踵が痛くなり慶応病院、他の病院の整形外科へ行ってもよくなりません。本日、交流会に出席して木村様や各会員のお話を聞き、大変参考になりました。

イタリアで透析を

熊谷 和子

今年(一九八七年)一月にイタリアで透析可能な病院を問い合わせた者です。ポロニヤの病院は、貴協議会より紹介された東京女子医大からの

会員交流会に参加して

生きることの
厳しさを知る

織本病院 外山 泰弘

東腎協役員の方々、多岐にわたる活動の段取り等大変な事と出席するたびに感じておりました。今回は、八グループに分けての討議でしたが、全てに参加して参考とさせて頂きたく思いました。が、一つの体にてなにを選択するか行くまで迷いました。

身近な事と「福祉・年金」に入り討議に参加しましたが、幸いに担当の役員さんがその道の専門家にて詳しく勉強させて頂きました。

最後に各グループの担当役員さんがそれぞれの討議経過をつぶさに報告され、大変参考となりました。会を終わり数々の事をきいた私自身、現実には生きる事の厳しさを今更味わった次第です。

社会復帰の現実を見る時、一沙その感を深めたように、働きたくとも透析というハンディのために職安の窓口にてその後押しが皆無という事実にはらだちさえ覚えます。その反面、働く意欲を自ら放棄して本来の社会復帰して社会への恩返しを忘れていている方々も、ここで認識をあらたにし、現実を見極めて下さればと痛感しました。

私も十年以上たち、お陰様にて長期合併症もなく導入以来お世話になっておられる。本院のお陰と思っております。長期透析の合併症があまり深刻なテーマに取り上げられなかつた事は、年齢が皆比較的短い方が多かつたせいのようなのですが、医療の進歩にともない福祉の在り方と共に今後大いに関心を喚起することだと思えました。

同じ病気の仲間、

打ちとけた話合い

個人会員 聖川恵美子
楽しみに待っていた会員交

病院リストから選び、ローマに關しては直接何軒かの病院に問い合わせは四一五月にかけて十月に行つてまいりました。大変楽しい旅行ができました。ありがとうございます。

又、来年も出来れば行きたいと思つております。

食欲もあり元気

石田 勝子

ヘマトがなかなか上がらないが、食欲もありとても元気です。

交流会には参加したい

清水 年秋

なるべく交流会には進んで参加したいのですが、仕事との時間調整がむずかしく努力はします(参加するように)。

病院変わる

長田 廣子

交通の不便な病院より近辺の病院へ移り、とても体調が良くなつたと思います。やはり、長く透析していくという事は楽に通える事でしょう。今年の夏二泊、十月初め

には一泊と旅行で楽しみ、交流会にも出席でき、不調の体も良くなつたと感じております。

日曜日、書道教室を

中村日日出子

毎週日曜日、書道教室をしています。カリウムが常に高く心配しています。胆石があると診断され、何かと気が重いです。

親子共々前向きに

下里 喜久、合子

本日、初めて東腎協交流会に患者・下里卓(二男)の親として出席。患者皆様の闘病体験を聞かせて頂きありがとうございます。早速帰つて当人に話し、親子共々前向きに頑張りたいと思います。(透析約六カ月、高校三年、十八歳、週三回透析)

有息義女交流会

山越さた子

私は、長期透析(交流会のグループ別懇談)を希望しています。大変良かったと思いま

す。いろいろお話を聞かせていただいていたがとうございりました。

明るく楽しい交流会

池田 文字

初めての参加させて頂き皆様努力なさっている姿にうれしかったです。毎日毎日の努力がつみ重ねとなり、元気に過ごされている明るく楽しい会でした。本当にありがとうございます。

慢性腎炎で発病十年

太田 香

発病して十年六カ月にあります。慢性腎炎です。毎日家におります。近くの勉強会などに出席しております。よろしくお願ひ致します。

体調が良くなるように

時 左千夫

食事療法などで高血圧も良くなり、ヘマトも上がつてリシなども良くなつてきました。これからもっと体調が良くなるようにガンバリます。

流会の日がきた。私は、四月の東腎協総会に初参加した。会員交流会は今日が初体験だ。



池袋から地下鉄有楽町線に乗り、飯田橋駅で下車した。会場の飯田橋セントプラザへは、ホームの案内板に従って歩いて行く。全く外に出ず、すぐ会場に着いてしまった。便利な所にあるなど感心してしまう。建物はきれいであるが交通の便もいので、またこの会場を使ってほしいなど思う。

受付を済ませ会場に入る。テーマ別にテーブルが分れている。私は「長期透析」のテーブルを選んだ。透析生活八年目なので、これからの長期

透析に臨んで問題点や合併症について知りたかった。交流会が始まった。長期透析のテーブルは、常任幹事の木村妙子さんの司会で始まった。十数人の参加者が自己紹介と病状などを話している。足や股関節の痛みを訴える人が多い。私も一時期、足やかかとが痛かったので、足やかかとが痛かったので、足やかかとが痛かったのでは、低リン食やアルミゲルなどの薬の飲み方の話は参考になった。



病院は違っても同じ病気の仲間だという安心感から打ちとけて話し合えた。日頃のストレスの解消にもなったと思う。

昼食は、周りの人と和やかに



に話し合いながらだったのとでも楽しかった。三時にはケーキと飲物が出た。おなかはずいずいなかかったが、一口食べたらいよいよ結局全部食べてしまった。食い意地が張っているナー。そして交流会は、あっという間に終わってしまっ。おなかにも満たされて私は家路についた。



私は個人会員で知り合いたく、一人もいなかかったが、勇気を出して参加して本当に良かったと思う。年齢・性別に関係なく知り合えるのもよかった。これからもできる限り参加したいと思っ。



個人会員の方や一度も会合に参加されたことのない皆さん、もし体調がよろしければ次の機会には参加できないでしょうか。お友だちになりましょう。違う病院に友人ができる。違う生活にも楽しみが増すと思っ。

痛切に感じる

婦人の老後問題

個人会員 逸見 澄子

会員になってまだ月も浅い私ですが、私共の病院では患者会がありません。したがって腎臓病に関する情報や知識を広くていく上でも東腎協に参加させていただき、色々勉強にいきたいと思っ、今回の交流会に友人と二人で参加しました。

いくつかのグループに分れ

て話し合いましたが、私は、「婦人特有の問題」に参加しました。

キヤブテンは、透析十四年の石川みきさんです。明るくはげらかな方でした。私共女の患者は、男の方と違って透析の日でも朝早く起きて掃除、せんたく、弁当作り、また昼食を作って夕食の仕度をすると病院に行くまでが色々大変です。また、家に帰ってからもすぐエプロンをかけて夕食の仕度、あと片づけ、あくる朝の仕度と一日たりとも休んでいる暇もありません。

ですから私達透析をしている婦人達は、体力をつけて男子以上に頑張りねばならない

会員交流会は、8つのテーマに分れて討論しあいました。日頃、患者会のない個人会員も患者会の会員も思う存分話し合えた好評でした。

と強く決意した次第です。

この頃痛切に感じる事は、
婦人の老後の生活です。夫に
も死に別れ息子、嫁娘にもな
るべく世話になりたくありま
せん。そこで東腎協の誌面で
もいつか叫ばれている透析の
出来る老人病院(国立または
都立)の設置を強く求めるわ
けです。この事については、
誰もが悩んでいる事だと思
います。それを十年先、または
それより先になるかも知れま
せんが、私としては出来る事
(例えば署名をすとかカン
パをすとか)を協力してい
きたいと思っています。

長期透析に関する事、身近
における医療問題にしても年
金、福祉にしてもどれをとっ
ても私共にとつて最も関心の
ある事であり、またより以上
知識を広めて研究していく問
題だと思えます。

自分の病院では、このよう
な事について患者間で話し合
う機会もないので会員交流会
に参加して良いお話やら体験
やらをお聞きしまして本当に
良かったと思っています。

楽しく過ごして 名札もとり忘れ

個人会員 西 裕也
初めて会に出席させていた
だきありがとうございますまし
た。

隣の席になかなか明るい
美人の奥様がいて病気の事も
忘れて楽しく過ごさせていた
だきました。

これからもたびたび会を開
催していただきたいと思いま
す。婦りにネームを渡すのを
忘れ、胸につけたまま新宿ま
で来ました。新宿で背広をみ
ると大きく西裕也の札がつい
ている事に気づき自分自身で
苦笑いしました。これも皆さ
んと楽しく過ごさせていた
いて夢中になり忘れたいと思
います。



キャンペーンに参加

Ⅱ新 宿Ⅱ

松和患者会西新宿支部
三浦 礼子

雲一つない秋空の中で実施
された街頭キャンペーンは、
東腎協役員、各患者会代表の
皆さんで盛大に行われまし
た。

一人百枚(チラシ)ずつが
割り当てられました。よ
しくお願いします。話
き読んで下さい。有り難
うございました。この言葉
を繰り返して何度言った
か。



キャンペーン参加者に注意点を伝える森事務局長

しようか。

最初は要領が悪く、なかなか受け取ってもらえませんでした。が、三十人位からこの人は受け取ってくれるか、くれないか判るようになりました。その中にお願いしますと目の前に出た時、左の手でパンフレットを受け取ってくれた青年がありました。その左手には内シヤントがはつきり見えました。

私はすぐ、貴方も透析をしているの」と話しかけ、どこかの病院かを尋ね、患者会が東腎協に加入していないようなら加入するように勧めようと思いました。そうしましたら、透析を七年して母親から腎臓をもらい、移植をして二年がたったと言う事でした。女子医大に三カ月に一度通院しているとの事でした。どうか一日も長く健康でいられるようにと言葉をかけてきようならをした時は、自分の事のようにうれしく、頭が熱くなり

ました。
色々な人達と接して、とても有意義な一日でした。

Ⅱ新 宿Ⅱ

月島サマリヤ腎友会
石川 顕夫

毎回思う事は、一番理解して欲しい若い人達の無関心な態度にがっかり致します。

特に若いアベック達の知らんふりで通り過ぎる事、私達の本心はどちらかといえ若い人の腎臓が良い訳で、これからは何んとか若い人にアピールするような企画をみんなで考えなくてはと、特に強く思いました。

それからパンフレットと花束を付けて出すのは良い考えだと思えます。大成功です。受け取って下さる方が多くあります。この次も花の件をよくらしく願います。

Ⅱ新 宿Ⅱ

代々木病院腎友会 匿名

私は、このキャンペーンに参加したのは昨年に続き二度目ですが、この二度共すばら

しい天候に恵まれ、感謝しました。でも、余りの良い天気だったのでだんだんと日陰に逃げての行動になりました。

キャンベーン中、数名の方

々が近寄って来て受け取って行って下さった人、ご理解して下さる人がずい分多くなって来てのと感じました。その中の一人の女性(健康な三十歳前後の方)と思いました。私は「私は身寄りがないので登録してあげても良いですよ。登録用紙を下さい」と言われましたが、私の手元にはなく誠に申し訳ないと思えました。キャンベーン用紙の所に連絡をお願いしましたが是非連絡下さることを望んでいます。登録用紙を下さい」と

言われましたが、私の手元にはなく誠に申し訳ないと思えました。キャンベーン用紙の所に連絡をお願いしましたが是非連絡下さることを望んでいます。登録用紙を下さい」と言われましたが、私の手元にはなく誠に申し訳ないと思えました。キャンベーン用紙の所に連絡をお願いしましたが是非連絡下さることを望んでいます。登録用紙を下さい」と

今回感じたことは、理解下

さる中で女性の方が多かったと思いました。

八王子

立川第一相互病院希望会

高橋 勝利

八王子駅前で行われた街頭キャンベーンに初めて参加しました。何せ生まれて初めての経験です。何んとなく恥ずかしく自信がなかったので交通安全キャンベーンのチラシ配りなど経験のある家内に応援してもらい街頭に立ちました。

八王子駅前に着くと既に私達希望会の竹中さん夫妻、大島さん親子、小林さんと妹さんの子供達、またうれしい事に役員でもない藤本さんが自発的に参加され、チラシを配っていました。さて、パンフとカットパンをもらい早速、恐る恐る配り始めたのですが最初受け取ってくれる方が少なく、どうなる事かと心配しましたが、だんだん慣れてくるともたつてくれなくて平気になると同時に調子も出て一時間もするとなくなりまし



八王子駅頭での腎キャンペーン好評だった血圧測定

た。パンフをじつと読む人、受け取ってもすぐゴミ箱に入れる人、様々ですが大半は余り関心を持たない人が多く、どれだけの効果があるのだろうか

かと疑問に思いました。すぐには成果はあがらない

だろうが、少しずつでも透析で苦しんでいる人達が現在、全国で七万人もおり、腎臓病の恐ろしさを理解してもらうために今後味地味な運動が必要だと思えました。

八王子

押島三井クリニク

高取 良允

八王子の駅頭におけるキャンベーンに参加させていた

きました。晴天に恵まれ初期の目的は達成されたものと思っております。役員の方、参加された会員の方々、ご苦労でした。

参加した感想としては、一、実施時期を考慮する必

要があると思えます。当日駅頭には多数の街頭キャンベーンが行われており、市民の人々はうんざりした顔色がみられました。チラシを受け取っても本当に目を通してくれるのか疑問を感じました。秋には、いろいろの運動が行われるので、秋に街頭キャンベーンを実施する理由はあるでしょうが、各運動の少ない時期を選んだらと思えました。二、当日は日曜で相当の人

出があり、その上種々のキャンベーンが重なり相当の騒音でメガホンで怒鳴った位では聞きとれませんでした。拡声器を取り付けた車等を使用し、市民に訴えたらと思いましたが、

また、血圧測定の場所は不適当でした。若干人混みが多すぎ、それに狭く、もう少し余裕のある場所を選定すべきだと思えます。市民の人々は、なにをやっているのか良く判らなかつた様です。

八王子

国分寺南口クリニク

西嶋 巖一

私も受腎者の一人として参加いたしました。当日は好天に恵まれましたが、肝腎なパンフレットを受け取って下さるかあやふやな気持ちでしたが、実際配布してみると案外スムーズに受け取って下さるので、これはいけると夢中になりました。

気がついたら階段まで行ってしまつて駅員からクレームがついたほどです。こうして

受け取って下さるのも全腎協、東腎協が年々ご苦労のおかげだと思われました。中には「ご苦労様です。がんばって下さい」と励まされ、本当にうれしかったです。

腎バンク登録運動と健康まつり

立川第一相互病院腎友会

竹中 貞昭

十月二十五日、私の透析病院で「健康まつり」が開催された。今年のテーマは、「生命と暮らしを守る祭典」で、病院が地域住民と一体となって健康な街づくりを旨目としている運動です。

この精神にそって、私達の患者会も参画することになり、献腎パンフレットを配布することを企画したところ、東腎協では心良く同意して頂き、当日には竹田事務局長が小雨の中をわざわざ応援にかけつけて頂き誠にありがたうございました。沢山の入場者があったのでパンフレットは全部配布しましたが、反応は今一つで、今後を期待した

いと思います。

それでも、今回の健康まつりでの献腎パンフレットの配布は新しい試みです。献血センターでのアイバンク登録用紙の配布などと併せて今後、考えていく一つの方向ではないでしょうか。

腎友会旅行の思い出

拜島三井クリニック

小杉 六男

十月二十四日、午後よりバスで三十余名で病院前を出発して、いよいよ目的地へ一路。

あいにく雨降りましたがバスの中では酒・ビール・ジュース類を飲みながら病院のスタッフ、腎友会の皆々でカラオケ等で盛り上がりを見せて楽しむうち目的地・伊豆長岡温泉に到着しました。少々遅れたのでだちだち各部屋に分れて入浴、宴会に入りました。宴会はまだまだ一段と盛り上がり、私も一、三曲へたな歌を同志の前で唄わせて戴きました。私は今回初めて三井クリニック腎友会の旅行に参加したのでありますが、全員の気持ち

のよき、明るさ等ではんとに楽しく、何年も友達付き合い合っているような感じがしました。

私も時々仕事仲間と温泉等に年四、五回行くのですが、それ以上にすべての面で楽しく元気なのに驚きました。それも病院側の我々に対する万全な医療と我々の日頃の自己管理がスムーズに行われているものだと思います。

翌日は空も晴れ、午前九時に宿を出発、日本平まで直行。日本平で少々早めの昼食、見学・買い物等で楽しみ、三保の松原・梅降寺を見学しているうち一日があつたという間に過ぎ、夕方四時過ぎに最終地を出発して東京へ向かいました。

私は約十七年前、静岡市内に一年間仕事の関係で居りまして、休日にはよく日本平へ行ったり、三保の松原で夏は水泳を楽しんだ記憶があります。静岡はいつ来ても良いところだとつくづく思いました。温泉は毎日でも行きたいと

ころですね。また次の旅行を楽しみに、健康に気を付けて頑張りたいと思います。

君塚さんを悼む

常任幹事

井上 慶典

そんなことがあつてよいのでしようか
風より先に花が散ってしまうような
そんな不条理があつてよいのでしょうか

腎移植推進キャンペーンでも元気に跳び回っていたあなた



昨年の常任幹事の旅行で、右から三人目が君塚清江さん

あれはたった一週間前

こんな理不尽があつてもよいのでしようか
あなたにも元気だったあなた

が
突然逝つてしまふなんて……

15周年記念クイズ発表

クイズ発表

①第1問 共通点・星座
仲間はずれ・イヌ

②第2問 秋の七草 りんど

③第3問 ①プロ野球のホームグラウンド 福岡市

②政令指定都市・所沢市

①、②のどちらでも正解
④第4問 海のない県 兵庫

⑤第5問 お札になった人 西郷隆盛

⑥1問以上正解者 敬称略
久保佳世子 小池 キヨ

佐藤 安行 高橋美美恵

時田 豊 渡辺 順子

以上の方々に記念品を贈りました。

私の近況報告

シヤント・トラブルと教訓

常任幹事 井上慶典

昭和六十二年十月二十日のことである。私は、立川駅の青梅線のベンチで次の電車を待つべく本を開いていた。時間はいつもと同じように静かに流れていたし、人々もその人なりに時間を過ごしていた。

私が右腕に生暖かいものを覚えたのはそのときである。その日の朝、シヤントから微出血があり異常を感じていたので、シヤントから出血したな」と思いながら右腕を見れば、すでにシヤツを透してジャンパーも真っ赤だ。この頃から周りの人々も空気の異常に気付く。

ジャンパーを脱ぎシヤツをめくと、血液が一瞬一瞬くらい噴き出す。人々は驚きと恐怖と訳の分からない不安とが入り混じった顔で私を遠巻きにする。左手傷口を押さえながら右手で止血ベルトを取り出す。この頃になると周りの人々も騒ぎだす。駅員のところへ

走る人、「救急車だ！救急車だ！」と叫ぶ人、「どうしたんですか」と声を掛ける人と様々である。それらは全て善意であつても、全てが有効であるとは限らない。何が

必要で何をすべきかは自分以外の誰にも分からないことを明記しておかなければならない。どうしても手伝って欲しいことは、正面の人とか、隣の人とかの具体的な人に、「あなたがやってください」という気迫を込めてお願いするのがよい。自分が迷っていたのでは

事情の分からない周りの人々は、ますます驚きや恐怖と訳の分からぬ不安をつつらせるばかりで、やつてもらえることもやつてもらえなくなってしまう。「恐怖からのがれたいとするのは本能的心理だと思う」

止血ベルトが巻かれ、一応止血されると本人も周囲の人もやや落ち着きを取り戻す。この時お礼と簡単な説明する。(詳しく説明し

ても相手には理解できないだろうから、状況は伝えるだけでよいと思う。ただし、お礼の言葉には「あなたのお陰で助かりました」と最大限の誠意を込めるべきだろう)

私は、右腕を締め付けている一本の止血ベルトを見つめないではいられなかった。「このベルトだけが今の自分の命を繋ぎ留めている」という思いで、確かにこのベルトがなければ、あと何分か出血が続いていたら私は死んでしまつたかもしれない。客観的には「死」に直面していながら、主観的にはその実感がまるでないのである。

このトラブルは、私にいくつかの教訓を与えてくれた。
その第一は、「死んではならない、生き抜かなければならない」という気概を持ち続けることである。この気概のみがトラブルに直面した時の自分を冷静にし、他人の手を動かさせる基本のように思われてならない。

その第二は、トラブルに直面して慌ててはいけないうことである。前述のように、本人が慌ててしまつては事情の分からない人はますます混乱してしまうように思われる。もっとも、血

や傷に異常なくらい恐怖を感じる私にできないきたのだから、ほかの人にできないはずはないだろう。こんなトラブルが減多にあるものではないが、心配な人には止血ベルトや患者カードを常時携帯することを勧めたい。私たちの場合、むやみに病院に收容されても逃げるできないでかえって困ることもある。こんな時必要なが患者カード(住所・氏名・病名・病院名・医師名等必要事項を記入)である。ただし、患者カードは相手に見てもらつてはじめて役立つものだから、大切にフトコロの中に仕舞い込んでしまつては、「宝の持ち腐れ」以外の何物ではなくなってしまう。

火災など緊急災害時についてもその時には、スタツフの手は一人では動けない患者に集中することは当然考えられるし、こんなことはあつてはならないのだが、スタツフ自身慌ててしまつてもできないかもしれない。こう考えると、自ら生きようとする気概を持つている人だけが生き残れるのではないだろうか。

他人を頼む心は、

自らの命を減ぼす。

大森輝秋さんに 感謝状を贈る



大森輝秋さん(四十三歳・写真右)は東腎協の機関誌の表紙を一九八〇年(昭和五十五年)四月から担当しています。

大森さんは透析患者で一九七六年(昭和五十一年)七月から透析療法を受けています。東腎協の表紙は大森さんの好意でボランティアで続けさせていたいただいております。十二月二日(水)透析前に、東高円寺クリニックをお尋ねしました。長年のご苦勞をねぎらい、一ノ清副会長(東高円寺クリニック)が東腎協を代表して感謝状を贈りました。

透析10年、15年透析者

調査を終えて

血液透析患者

三、調査結果

この調査は常任幹事会から選出された十年、十五年調査委員会(石川みさ、井上、草間、小泉、竹田)によって東腎協加盟患者会の役員の協力を得て行われました。

一、調査日

一九八七年(昭和六十二年)十一月十九日(十五年前の十一月十九日東腎協結成)

二、調査の対象者

対象者 東腎協加盟会員のうち

前号(六十八号)で透析歴、男女別、年齢分布の表などで報告しました。

① 一年以上透析者の割合

有効回答数三七五六人に対し一年以上の透析者は八二三人で二一・九%となっています。

日本透析療法学会の調査(一九八六年十二月三十一日現在)では透析者数七三三三七人に對

して十年以上透析者が九七三五人で一三・二%となっています。

② 最長透析者(女性・四十六歳)

一九六六年(昭和四十一年)十二月九日透析療法、二十一年

③ 最高齢透析者(女性・八十六歳)

一九七五年(昭和五十年)五月二十五日透析療法開始

④ 最年少透析者(女性・二十七歳)

一九七七年(昭和五十二年)六月二十七日透析療法開始

⑤ 透析歴別男女比

透析十三年の女性の割合が多いことが目につきます。十五年前には女性が透析にかかれなこともありました。

〈お詫びと訂正〉

前号(No68)で次の患者会の会員の方々が掲載されませんでしたので、お詫びして追加します。

小笠原クリニック友の会(2人)
(10年以上)

青木 貞子 長沢 昇司

望星田無クリニック(3人)

中井 義雄 小山竹千代

大島 矩子

また、松和患者会西新宿支部の岡田貴史さんは、田田貴史さんの誤りでした。

透析歴別男女比

透析歴	性別	人数	率(%)
10年	男	91	56.2
	女	70	43.2
11年	男	100	60.2
	女	65	39.2
12年	男	93	61.2
	女	59	38.8
13年	男	75	54.7
	女	61	44.5
14年	男	67	69.8
	女	29	30.2
15年以上	男	71	64.5
	女	38	34.5
合計	男	497	60.4
	女	322	39.1

性別不明4人

事務局から

病院の行事などに積極的に出席する

10/23 調布東山病院訪問(小泉)
10/25 腎研友の会学習会出席 (森)

立川第一相互病院健康まつり出席 (竹田)

11/2 会員拡大で望望田無小山氏と面談 (竹田)

11/9 町屋原病院中根氏自宅訪問 (竹田)

11/10 東村山診療所島田氏自宅訪問 (竹田)

11/11 福生病院訪問 (竹田・井上)

11/29 あけぼの病院訪問(竹田)

11/29 氷川下セツルメント病院東腎協説明会出席(森)

12/15 小笠原クリニック友の会発足会、忘年会出席 (森、草間)

これからも東腎協の活動内容等の紹介のため、総会などにも連絡があれば積極的に出席します。よろしくお願ひします。

君塚 清江さん逝去

君塚清江さん(常任幹事・大和病院)は十月二十八日、心不全のため逝去されました。東腎協の行事には積極的に参加し、いつも明るく私たちを楽しませてくれました。ご冥福を心からお祈りいたします。

御芳志

ありがとうございます

糸賀久夫様(8月25日)
菅野昭子様(9月24日)

腎臓売買の話には絶対のらないで下さい

全腎協から一部報道機関がファイビンの腎臓売買組織の動向を紹介したり、同種の動きがあると各地から報告されている、と連絡がありました。

某県の会員で腎臓提供を餌に二千満円をだまし取られた例も報告されているそうです。患者のモラルも問われる問題でもありますので、この種の話には絶対のらないようにして下さい。

23区の会員交流会

昼食交えて楽しくつう

二十三区の会員交流会が十一月一日、飯田橋のセントラルプラザで開催されました。午前十一時から始まった交流会は、昼食も一緒にあってとり、八つのテーマ別に話し合いました。参加者は六十二人でした。(感想文は「仲間のたより」掲載)

関東ブロック会議

活動家の研修に参加

十一月十四日・十五日、五反田ゆうほうとで開催された活動家の研修、交流会に東腎協から三人が参加しました。患者会活動についての発表は当会から鈴木常任幹事が行いました。十五日には東京都立大学教授・西三郎先生が「患者と医師の付き合い方」と題して講演を行いました。

十二日五日・六日には、関東ブロック会議が五反田ゆうほうとで開催され六人が参加しました。

都が腎不全研究会報告書

を発行

東京都は、一昨年設置した東京

都腎不全研究会の成果をまとめた報告書を十月に発行しました。

内容は、①慢性腎不全対策の必要性②慢性腎不全対策の現状と課題③普及啓蒙活動を含む今後の対策について、などです。

全腎協国会議願は

2月16日(火)行います

全腎協は、毎年実施している国会議願を二月十六日(火)に行うことを決めました。東腎協では、これまで多くの人が議願行動に参加してきましたが、当日参加してもよいという人は事務局へご連絡下さい。

新入会員紹介

よろしく

新松山病院友の会(13人)

〒174 板橋区常盤台4の25の5

新松山病院内

氷川下セツルメント病院(14人)

〒112 文京区千石2の1の6 氷川下セツルメント病院内

編集後記

記念号(No.68)を出した気のゆるみかこの号の準備が大幅に遅れてしまいました。(加藤)